

ひかり

2014年10月号



日本聖公会 三光教会

第630号

〒142-0064 東京都品川区旗の台6-22-24
電話 03 (3781) 2554
FAX 03 (3781) 2544
<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

使徒マタイ

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』(マタイ 21:42)

「秋バザー」

司祭 グレース 神崎和子

夏バザーが皆様のご協力により無事終了いたしました。

夏の間、会館の一角がバザーコーナーで占められていました。愛餐会の後に何か掘り出し物が見つかりそうで、ワクワクする思いで、品物の並ぶ台を見回りました。楽しい一か月でした。

夏バザーが終わると、今度は本格的な秋バザーです。年に一度、一日だけのバザーです。地域の方々、また知人、友人、家族に教会を訪ねて楽しんで頂く、最も良い機会、広い意味での宣教のチャンスです。私たちは外に向かってどのように教会をお伝えできるでしょうか。

教会バザーは、楽しい、安い、「掘り出し物」が見つかる、そのような場だけではありません。そこが教会の場であることが大きな違いではないでしょうか。私たちは、キリスト者として、一人一人の姿が問われているようにも思えます。

またバザーはその当日まで、準備の期間を多くの信徒が共に働き

ます。この時間はそれぞれが自分の時間を主イエスのため、教会のためにお献げする時間です。他者を思い自分の時間や労力を献げるのです。自分から出来ることを、楽しみな分野、得意な分野、経験ある分野、それだけが与えられたタラントをお献げします。

主イエスのお支えによって生きてきた、その中で育てられ、得られたタラントを、祈りと共にバザーという形を通してお献げするのです。そしてまた何かが出来ることが必要なだけではなく、働く人のため、教会のため、バザーのために祈ることも大きな協力参加の一つです。

バザーで信徒の間の交わりの機会も与えられます。礼拝だけではなく、共に準備しバザーのために働くことを通して、お互いをより深く知り合う場も与えられます。

今年の秋バザーも、平安の内に、主と共に歩む教会を現すものになることを、願ひ祈っています。

10月～11月の予定

25日(火)	23日(日)	21日(金)	18日(火)	17日(月)	16日(日)	11日(火)	10日(月)	9日(日)	7日(金)	4日(火)	3日(火)	2日(日)	1日(土)	◆11月	28日(火)	26日(日)	19日(日)	18日(土)	17日(金)	14日(火)	12日(日)	◆10月
聖書の学び(旧約)	降臨節前主日	聖書の学び(新約)	聖書の学び(新約)	修院長ヒルダ	聖霊降臨後第23主日	聖書の学び(旧約)	主教マルチン	教会創立102周年記念礼拝	聖書の学び(新約)	聖書の学び(新約)	11月逝去者記念聖餐式	聖霊降臨後第21主日	諸聖徒日		使徒聖シモン・使徒聖ユダ日	三光教会秋の大バザー	聖霊降臨後第19主日	福音記者聖ルカ日	聖書の学び(新約)	殉教者主教イグナシウス	聖書の学び(旧約)	聖霊降臨後第18主日

婦人会だより 9月

9月21日 出席者34名
司祭のご都合により当日は連絡事項のみでした。

①「フィリピンプロジェクト」より。来年度ステパノ教会より女性二人が来日、副牧師館に宿泊予定。婦人会の協力をお願いします。

②10月26日のバザーのこと。「会館入り口に売り場担当表を貼り出しますので、お名前を書き込むようご協力ください。」また、各売り場に立つ人が自発的に値付けをするようお願いします。

③会館の使用に関して神崎司祭より確認。コーラス、オムツ、ケーキ、お仕事会、からし種の会の各班は会館のキッチン入口横のカレンダーに、必ず使用日の欄に会名を書き込んでください。

「ひかり」9月号の発送作業をお手伝いして終会した。

(記・関塚晴美)

男子会だより 9月

9月21日開催、出席者13名。

・男子会の主催による8月25日から3日間の東日本大震災復興視察旅行(参加者9名)、および9月8日に安次嶺泉兄宅で行なわれた家庭集会「牧師と語ろう、三光教会について」(神崎司祭ほか9名参加)の報告があった。

・10月26日開催予定のバザーは、例年通り警備、焼き鳥、家具類、書籍などの販売を男子会で担当するが、担当者表に各自が記入するともに、来月の会議で最終決定する。
・フィリピンのステパノ教会男子会の働きについて、総会の議事録より学んだ。

・日本キリスト教団洗足教会の男子会との交流会は11月16日(日)午後洗足教会で行われる。

(記・柳原仁哉)

青年会だより 9月

9月21日 出席者4名

・ベイリー『朝の祈り夜の祈り』を共に読みました。

・来年度のフィリピンのステパノ教会の方々の招聘のために、何ができるか祈り考えました。まだ具体的には決まっていませんが、よき交わりの時が持てるように引き続き祈っていきます。

・青年会のメンバーが増えるようお祈りください。(記・村上紗知子)

フィリピン協働だより

神崎雄二司祭からフィリピンの様子をお話ししていただきました！

9月28日愛餐会の後、月島聖公会牧師神崎雄二司祭から「フィリピンの人々との交わりから得た恵み」と題してお話をお聞きしました。神崎司祭はフィリピンに留学され、司祭按手の後はアジア各地を訪問しワークキャンプや滞日フィリピン人のためのミサやカパティラン発足にも関わられました。



神崎雄二司祭

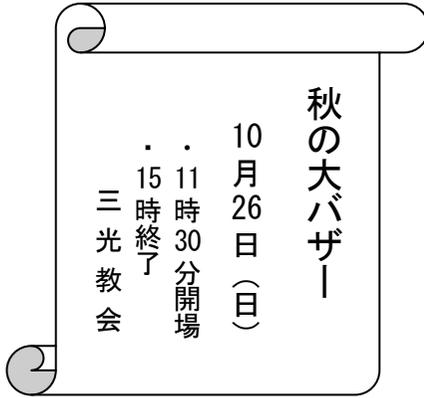
昨年フィリピンを襲い死者7千人・被災者1200万人を生んだ台

風ヨランダの被災者へ神崎司祭は、今年1月に東京教区、カパティランなどを通しての献金(合計132万円)を携えて支援のためフィリピンへ向かわれ、現地での支援の様子をお話しくださしました。セブ島近くの小島の村は87戸のうち85戸が屋根を飛ばされたため、屋根と柱の材料購入と漁船修理代とに用いられました。

8月には月島聖公会より子供6名大人5名が現地を訪問。漁網の購入、植樹、畑造り、種蒔き、子供学用品配布、衣類配布、村中に捨てられたビニールごみの清掃等、暑さの中で働いてこられました。2回の訪問とも、現地の人々が明るく、暖かく、質素だが豊かで美味しい食事を用意してくださり村人の愛をたくさん頂きました。

今、何が必要か?今後望まれる関係は?物質的な援助以上に初等教育など人を育てる支援が望まれる。また三光とフィリピン聖ステパノ教会との協働関係で大切なことは、相手から何を学び、互いに学び合えるか(歴史的な負の遺産を見つめ、

■追記 前号（8・9月号）掲載の写真
1〜5の撮影者は安次嶺泉兄でした。



懺悔と赦しをあらわすこと。経済関係の構造的矛盾を認識すること。顔と顔の見える関係を維持し、支えあえる関係を維持することが教会間の協働を可能にするのではないか、などの示唆をいただきました。

このプロジェクトのはたらきを継続することでステパノ教会と三光教会が共に成長できるか、あるいは困難のため共に歩むことをあきらめてしまうか、今、私たちは目に見えない台風に備えようとしております。

（記・松崎尚美）

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時からお昼までご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

- 礼拝様式に馴れない方は、礼拝中椅子にお掛けになったままで結構です。
- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か入口の案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
（日曜学校）礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、毎朝6:30の早祷に引き続いて聖餐式